

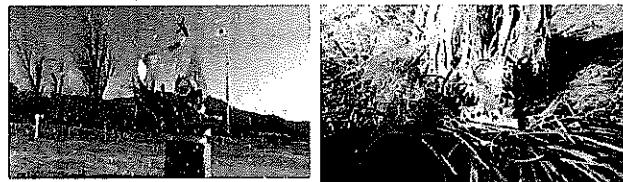
研究テーマ	生徒がつくる喜びを味わいながら、生活や社会を豊かにする美術の働きを実感することができる学習指導の工夫 —第8学年「校庭にオブジェを飾ろう」の実践を通して—
-------	--

桜川市立桃山学園 教諭

## I 研究テーマについて

平成20年度改訂の学習指導要領の成果と課題について、平成28年12月中央教育審議会答申において、「(前略) 感性や想像力等を豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成することや、生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わる態度を育成すること等については、更なる充実が求められるところである。」と示された。また、平成29年告示の中学校学習指導要領美術編では、育成することを目指す資質・能力「思考力、判断力、表現力等」について、「造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようとする。」と目標に明示している。これらを受け、本研究では、生徒自らが主題を模索し、目に見えない心の世界を抽象的なオブジェに表現すること、そしてその作品を飾ることで、その場に現れる新たな価値や意味を発見し、生活を豊かにする美術の働きを実感することができるよう、授業を構想した。

導入においては、古くから地場産業として栄えてきた石材によるモニュメントや、地元桜川市で数年に一度開催されている「雨引の里と彫刻」の紹介をすることで、地域が美術と密接な関係にあることを再確認し、美術をより身近に感じさせたいと考えた。あわせて、ICT環境を利用し、鑑賞活動や評価に生かしていくことを、本研究の中で取り入れることとした。



## II 研究の実際

## 1 題材名 校庭にオブジェを飾ろう

## 2 題材の目標

- 抽象的な表現に关心をもち、主体的に制作に取り組もうとする。 (関心・意欲・態度)
- 主題や置く場所、作品を取り巻く光や風などを考えて、構想を練る。(発想や構想の能力)
- 主題や置く場所に合う形や材料を考え、意図に応じて、自分の表現方法を追求して創造的に表す。 (創造的な技能)
- 作品と場所との関係に注目しながら、作品のよさを味わう。 (鑑賞の能力)

## 3 題材について

## (1) 生徒の実態

本学年の生徒たちは、1学期に「幼い頃の思い出」という題材で、切り絵制作を行った。小さい頃の自分の写真をもとに、強調や省略、単純化などに着目し、自分でデザインを起こすことができた。作品は保護者や他学年にも好評であった。

しかし、美術が好きで毎時間の授業を楽しみにしている生徒は、あまり多いとは言えない。また発達段階的にも、作品の出来映えに優越をつけたがったり、より具象的な作品をよしとして、抽象的な表現を「訳の分からぬもの」と単純に決めつけてしまう傾向もある。

(平成30年11月19日 調査人数103人)

- |                                     |           |                    |           |
|-------------------------------------|-----------|--------------------|-----------|
| 1 美術で、自分の思いや願いを作品に表すことに興味はありますか。    | 興味がある 35% | どちらでもない 50%        | 興味がない 15% |
| 2 美術の作品作りで、イメージがわいてこなくて困ったことはありますか。 | ある 65%    | ない 35%             |           |
| 3 抽象表現の作品のよさや印象は、どんなものですか。[複数回答可]   | 難しい 87%   | 作品に大した意味はないと思う 60% | 興味がない 44% |
|                                     | 不思議 40%   | 面白そう 29%           |           |

### (2) 題材観

この題材では、生徒自らが主題を決定し、目に見えない心の世界を主に抽象的な表現を用いてオブジェに表す。パブリックアートをイメージしながら、自分なりに環境を美しく、楽しくするような形を考え、アルミ缶とアルミ線を使用して表現する。そして、制作した作品を校舎内や校庭などに飾ることで、その場に現れる新たな価値や意味を発見することができるようになる。生徒が自ら表現する授業であると同時に、普段目にしつつも意識に上らない周囲の環境に注目させる機会としたい。また、生徒たちに、身近にあるパブリックアートや生活の中にある形の中から面白さや美しさを感じ取らせることで、生活を豊かにする美術の働きにも気付かせたい。

### (3) 指導観

上記のアンケート結果から、本題材では、材料に触れたり試したりする時間を確保することで、五感を働かせた豊かな発想につなげたい。また、イメージを広げる際にアイディアスケッチだけでなく、言葉を使ったり、グループの中で意見を交流し合ったりと、表現や鑑賞の過程で、言語活動を積極的に取り入れるようにする。言葉を手がかりにしたり、お互いにかかわり合うことで、共感や新しい発見を見い出し、学習意欲を持続させていきたい。教師は、机間指導を行い、一問一答ではない生徒との対話を大切にしていきたい。「今、作品の中で、何が起こっているのか。」「これからどんなことが起こるとしているのか。」を聞き出し、それぞれの思いに合った表現の工夫を、共に考えるようにしていきたい。

## 4 題材の評価規準

④関心・意欲・態度	⑤発想や構想の能力	⑥創造的な技能	⑦鑑賞の能力
主題などをもとに、主体的に創意工夫し、制作に取り組もうとしている。	主題を基に想像力を働かせ、単純化や省略、組合せなどを考えて、創造的な構想を練っている。	材料や用具の特性を生かし、イメージをもちながら自分の表現意図に合う表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。	作品を取り入れられている自然や材料などからよさを感じ取り、安らぎや自然との共生などの視点から、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解している。

## 5 指導と評価の計画（7時間扱い）

時間	学習内容・活動		評価規準・【評価方法】
第1次 1時間	①	・学習の見通しをもつと共に、パブリックアートの鑑賞をし、設置場所と作品の関係や、抽象表現について考える。	・抽象的な表現に関心をもち、主体的に制作に取り組もうとしている。 ○【対話・行動観察・ワークシート】 ・作品と場所との関係に注目しながら、作品のよさを味わっている。 ○【対話・行動観察・ワークシート】
第2次 4時間	② ③	・材料や道具に慣れる。 ・スケッチをして、抽象的な表現のイメージトレーニングをする。 【練習1】【練習2】 ・主題や置く場所、作品を取り巻く光や風などを考えて、構想を練る。 【アイデアスケッチ】	・抽象的な表現に関心をもち、主体的に制作に取り組もうとしている。 ○【対話・行動観察・ワークシート】 ・主題や置く場所、作品を取り巻く光や風などを考えて、構想を練っている。 ○【対話・行動観察・表現】

(本時)	④	・自分のイメージを言語化、可視化し、交流を通して、さらに思いや願いを明確にし、形で表現する。	・主題や置く場所に合う形や材料を考え意図に応じて、自分の表現方法を追求して創造的に表している。 圓【対話・行動観察・表現】
第3次 2時間	⑥ ⑦	・自分の作品をパブリックアートに見立て、作品のイメージにあった特徴や雰囲気を生かした場所で、写真撮影をする。 ・自分や友達の写真撮影で、感じたことや考えたことをまとめると共に、新たな価値を創造する。	・主題や置く場所、作品を取り巻く光や風などを考えて、構想を練っている。 圓【対話・行動観察・表現】 ・作品と場所との関係に注目しながら、作品のよさを味わっている。 圓【対話・行動観察・表現】

## 6 指導の実際

### (1) 表現のための鑑賞

導入においては、古くから地場産業として栄えてきた御影石によるモニュメントで、市内で見かけるパブリックアートを紹介した。御影石は、通学路などでもよく見かける素材で、墓石や門柱、工芸品等として認識されることが多いが、ここではパブリックアートとして見たときの面白味や役割を話し合った。周囲の風景と美術作品とがコラボレーションして世界観をつくり出していることを、生徒たちから引き出すことができた。そこで、教科書や資料集を使って環境と美術の共生について触れることとした。また、1996年から地元桜川市で数年に一度開催されている「雨引の里と彫刻」の紹介をすることで、生徒達は、地域が美術と密接な関係にあることを再認識すると共に表現の自由さを実感し、美術をより身近に感じることができた。



「変相」 横涉氏

[http://sakuragawamj.com/wp-content/uploads/2011/04/sekisho\\_no\\_michi](http://sakuragawamj.com/wp-content/uploads/2011/04/sekisho_no_michi)

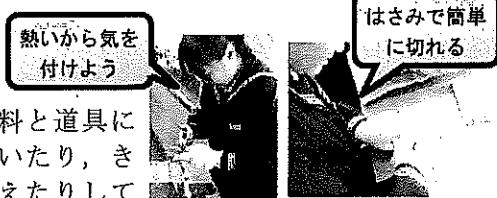
「ストネーブ」 井坂吉男氏

「湧出／天地を巡るもの」 戸田祐介氏

<http://www.amabiki.org/cn2/cn3/pg229710.html>

### (2) 抽象的な表現について

パブリックアートの鑑賞と話合いの後、抽象的な表現でオブジェをつくり飾ることを生徒たちに伝えた。そして、「抽象的な表現とは」を話し合ってみた。アンケート調査にあったような、「難しい」、「作品に大した意味はない」、「興味がない」等というネガティブな意見は多くはなかったが、明確な答えを導くことは難しかった。そこで、「抽」と「象」の漢字の意味について、触れてみた。「抽」は引き出す、「象」は物の形や目に見える姿という意味であることから、もう一度グループで話合い、それぞれが抽象的な表現の意味をつかむことができた。

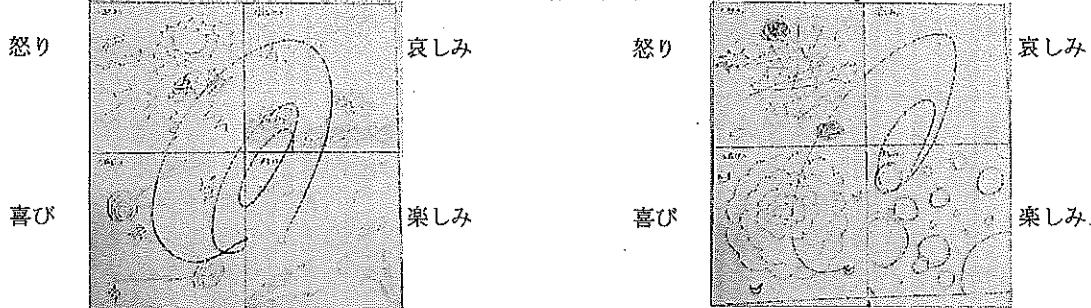


### (3) 材料に触れたり試したりする活動

第2次1時間目において、スケッチの前に、材料と道具に触れる時間を設けた。アルミ缶をはさみで切り開いたり、きりやフォークで穴を開けたり、スプーンで形を整えたりしてみた。また、釘と金づち、グルーガン（ホットポンド）の使い方についても、試してみたことで材料や道具の扱いを思い出したり、特性を知ることができ、スケッチの後速やかに制作に入ることができた。

#### (4) 主題を探る

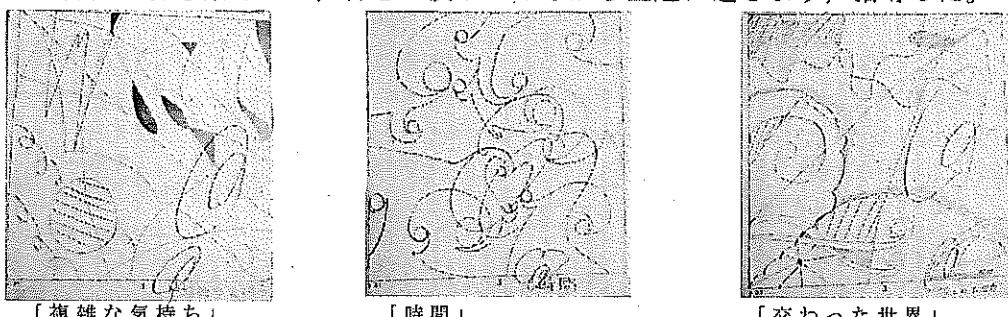
まず、【練習1】として、線や形などで感情を表すスケッチをした。



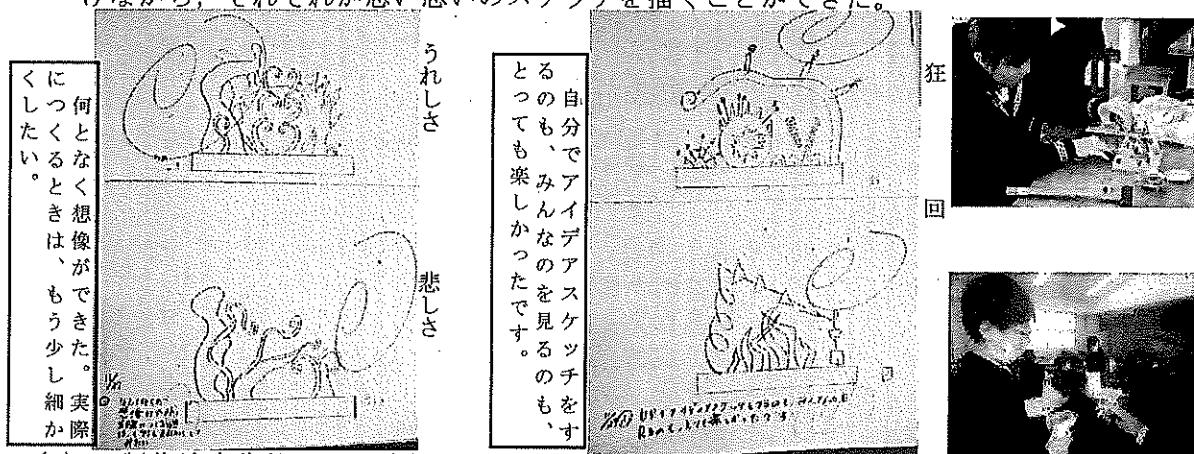
次に、【練習2】として、スケッチと主題をあわせて生み出す練習をした。主題は感情や、動詞、事象を表す言葉など、自由に決定してよいこととした。また、方法は、以下のどちらでもよいこととした。

- ・描いた線や形や全体のイメージから、主題を決定する方法
- ・決定した主題に合わせて、線や形や全体のイメージを描く方法

そして、今後も同様に、1度決めた主題は、描いたスケッチや、作品づくりにおいて、いつでもよりよく変更したり修正したりをしてよいことを伝え、心情とイメージと言葉を自由に行き来させて、行きつ戻りつしながら主題に迫るよう、指導した。



その後、作品づくりのためのアイデアスケッチに入った。生徒は自由にイメージを広げながら、それぞれが思い思いのスケッチを描くことができた。



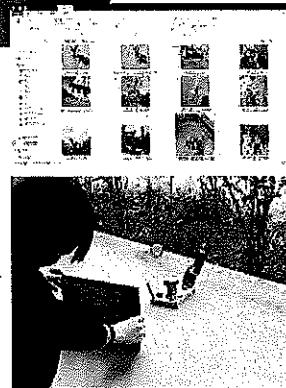
#### (5) 制作途中作品のスライドショー

第2次4時間目に、制作が終了した生徒から順に、タブレットで作品を撮影させた。画像は、指定したフォルダに保存せると同時に、スライドショーにして大型テレビに映し出しておいた。生徒は、自分や友達の作品が次々と映し出されたことで、ヒントを得ることができたり、出来映えに満足してお互いの意見を交流したりする様子が見られた。しかし、友達の作品を見るに気が向いてしまい、制作する手が止まってしまう生徒もいたため、作業と視聴の時間調整が必要であると感じた。



## (6) 写真撮影と画像の保存

第3次1時間目に、4人グループで1台のタブレット端末を使用し、校庭等での写真撮影を行った。学年全体が落ち着いているため、空き時間の先生1名に協力をお願いすることで、生徒たちは校庭や中庭等で、撮影をすることができた。主題に合わせ、光や風、空気感を捉えながら、生徒たちは撮影場所を決定し、主題に合ったアングルを決定することができた。制作中に思い描いていた場所に作品を置いてみたり、慎重に角度やアングルを確かめたりする姿からは、美術と環境が生み出す感情やここに新たな価値や意味を発見している生徒の姿があった。



撮影した画像は、あらかじめ教師が指定しておいたクラスごとのフォルダに、自分の名前を付けて保存させた。これらは、次時の鑑賞や教師の評価に生かすことができ、大変有効であった。撮影に関して、生徒の安全確保を考慮すると、学年によっては狭い範囲での撮影になってしまうことや、制作のみで終わらさざるを得ないこともあると考えられる。

## (7) 振り返りと鑑賞レポート

第3次2時間目に、パソコンを使い、制作の振り返りと鑑賞活動を行った。まずは、自分の作品（撮影した写真）についてのレポートを作成した。作品制作や主題に関するここと、撮影場所を決定した理由、写真の全体のイメージなどを自由に振り返らせた。さらに、



クラスの友達の作品をフォルダから自由に鑑賞し、レポートを作成した。どちらもフォルダを指定し、保存させることで、評価に生かすことができた。しかし、タイピングの技能には個人差があるため、希望する生徒はパソコン上ではなく、紙面でのレポート作成に取り組ませた。また、懸念される事案としては、誰でも他人のレポートを開くことができるため、いたずらをされてしまう可能性も考えられる。今後の課題としたい。

## 友達の作品鑑賞レポート

理科の授業でならう「胞子」  
を題名にしたのがおもしろい  
と思いました。;

また、その間を利かして何かたりつけたりがいい光景にならいました。

背景の黒板がいい

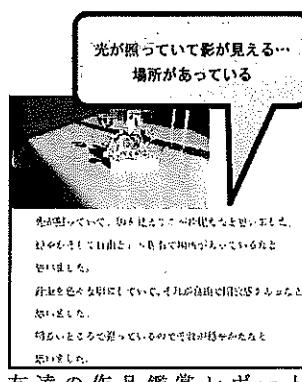
## 自分の作品レポート



ガヤガヤしているイメージだった  
たので背景は穏やかな空に…



作品に花があるため芝生や筑波山、空などの自然が合う

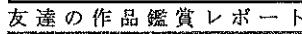


光が照っていて影が見える…  
場所があつていい

先が堅っていて、歩き足りなくて困りました。でも、  
歩くうちに自然と、これまで抱いていたあれこれ  
想いが消した。  
音楽を色々な形にしていく。それが自然で出来上がるからいい  
感じました。  
何かいふところで迷っているのでそれは何をやかたなと



きっと教室に繁殖  
しようとしている



### III 研究の成果と課題

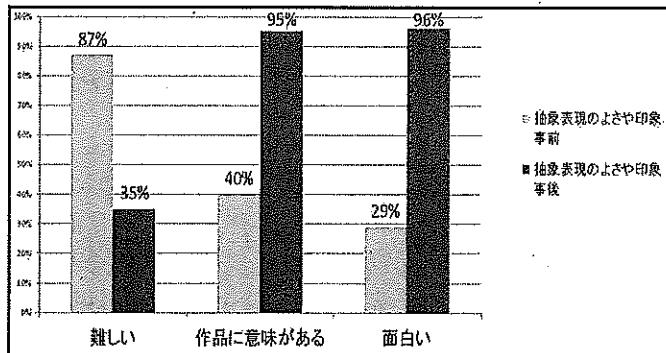
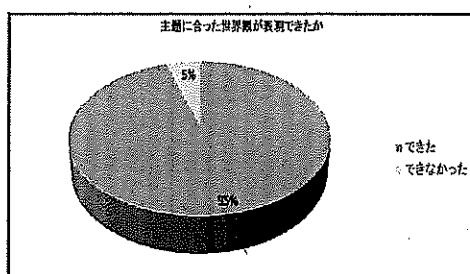
#### 1 成果

授業後に以下のようなアンケート調査を行った。(平成31年3月15日 調査人数103人)

- 1 美術で、自分の思いや願いを作品に表すことに興味はもてましたか。  
興味がもてた 71% どちらでもない 17% 興味はない 12%
- 2 言葉と一緒に作品のイメージを練ったことで、イメージはわいてきましたか。  
わいてきた 73% 以前と変わらなかつた 27%
- 3 抽象表現の作品のよさや印象は、どのようなものですか。[複数回答可]  
難しい 35% 作品には意味がある 95% 面白い 96%
- 4 撮影に選んだ場所に飾ったことで、主題に合った世界観が表現できましたか。  
できた 95% できなかつた 5%

事前のアンケート調査と比較すると、美術の表現活動に対しての興味が高まつたことが分かる。生徒の発達段階から考えると、作品の出来映えに差が見て取れる写実的な表現ではなく、作者が新たな価値や意味を表現できる抽象的な表現を楽しめた成果の表れであると思われる。これは、3の自分や友達の作品から、意味を見いだしたことからも分かる。また、言葉を手がかりにイメージを練ったことで、発想や構想の段階での大きなつなづきはなかったことも明らかになった。そして、今回の撮影に関しても、自分なりの意味や価値を探りながら自分たちが普段生活しているスペースに作品が並ぶという表現ができたことで、それぞれに意味や価値が生まれるという事象を楽しむことができ、生活を豊かにする美術の働きを実感できたことが伺えた。

抽象表現の作品のよさや印象はどのようなものか



#### 2 課題について

- ・少ない授業時間の中で、多様な思考や表現方法を学ぶことができる授業づくり
- ・生徒が学びを実感できる、題材の精選と指導方法の改善
- ・作品のみに頼らない評価につなげる、制作中の生徒の見取り
- ・材料収集

（参考資料・文献）「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 美術編」文部科学省

